



北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2017.11.No243

11月号

目次

『札幌のまち歩きVOL.2「白石ころーど」の魅力と歴史を探る編』	1
技術ノート	2
青年・女性の怒 〔青年委員会〕	4
道士会の動き	5
ブロック会報告 〔道南・道北〕	6
Coffee Break	7
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

『札幌のまち歩きVOL.2 「白石ころーど」の魅力と歴史を探る編』



札幌支部まちづくり委員 川原昌彦

札幌支部まちづくり委員会では、まちづくりに関連するいくつかの取組みを行っており、その取組みの中心は、一般市民向けで『札幌の景観バスツアー』で好評を得ています。

今回の「まち歩き」は、その発展として見学場所の点から点への移動ではなく、まちを散策することで連続した街並みを味わい、まちの魅力の再発見や気づきの感覚を得ることを目的に、10月9日(月・祝)、『札幌のまち歩きVOL.2「白石ころーど」の魅力と歴史を探る編』を、一般市民を含む20名の参加で開催しました。

「白石ころーど」の特徴

正式名称は「道道札幌恵庭自転車道線」。札幌コンベンションセンターから、JR北広島駅まで続き、昭和48(1973)年に廃止された旧国鉄千歳線跡地を自転車・歩行者専用道路として再生されたもので、平成27(2015)年に「白石ころーど」という愛称となりました。市街地でありながら、交差点がアンダーパス化され安全に通行でき、沿道には、万生公園のほか、東屋などがあり休憩しながら散策を楽しむことができ、木々が季節の移ろいを身近に感じさせる、市民に親しまれる憩いの通りとなっています。



白石ころーど

散策ルート・見学スポット

見学スポットとして、①イーアス札幌広場(鉄道モニュメント)、②オフィス用品倉庫(レンガ造倉庫)、③菊水円形歩道橋、④島川製菓株式会社、⑤モザイクタイルアート、⑥環状夢の橋、⑦月寒駅跡、⑧アサヒビール園(昼食)、その他の見学スポットを歩きめぐりました。それぞれの歴史などの説明を当委員が案内人となって行いました。



①鉄道モニュメント



②オフィス用品倉庫



「白石ころーど」から眺められる木造の工場

おわりに

今回は、身近な歴史的建造物や街並みなどの「空間」要素と、季節の移ろいや地域の歴史・文化を背景とする「時間」要素。それらを総合的に体感することでまちに彩りを感じ、通りの新たな魅力に気づく機会となりました。

参加者から次を望む声があることから、またこのような「まち歩き」を開催したいと思います。

降雨が積雪荷重に及ぼす影響について

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所 地域研究部環境防災グループ 主査 (都市環境)

堤 拓哉

1. はじめに

2014年2月14日～16日に急速に発達した低気圧により、関東甲信地方では大雪に見舞われ、鉄骨造大スパン建築物の被害が多発した。被害調査の結果、その主要因として、積雪後の降雨による屋根の積雪荷重の増加が指摘された¹⁾。諸外国では積雪荷重への降雨による割増荷重が規定されており²⁾、米国のASCE7の例を挙げると、積雪荷重が 0.96kN/m^2 以下の地域で、屋根勾配が $W/15.2^\circ$ (Wは屋根スパン長(m)) よりも小さい全ての建築物において降雨による影響分として 0.24kN/m^2 の荷重が割増される³⁾。一方、日本国内では、降雨が積雪荷重に及ぼす影響について検討が行われていない。将来的に地球温暖化等の影響により、積雪時にまとまった降雨に見舞われる可能性もある。このような背景から、国土交通省平成26年度建築基準整備促進事業(課題名「積雪後の降雨の影響を考慮した積雪荷重の設定に資する検討」)において降雨の影響を考慮した積雪荷重の設定方法について、気象データの分析および実大規模の実験に基づき検討した。本稿では、得られた研究成果の一部を紹介する。

2. 積雪後の降雨に関する気象データの分析

日本全国153の気象台および測候所等による観測資料を用い、降雨が積雪荷重に及ぼす影響について分析を行った。図1は各観測地点における積雪荷重の50年再現期待値⁴⁾と積雪時の2日間降雨量(累年平均)の比である。ここでは降雨の全てが荷重として積載されると仮定している。図1をみると、北海道を始めとする多雪区域(垂直積雪量 1.0m 以上)における降雨による割増荷重の比は概ね 0.2 以下であり、その影響は比較的小さいものの、太平洋側など一般区域(垂直積雪量 1.0m 未満)の多くは割増荷重の比が 1.0 を超えるなど、その影響はかなり大きいことが分かる。

割増荷重を算定する際に用いる降雨量については、降雨の頻発する夏季と異なり、積雪時の降雨は比較的短時間の現象であるが、降雨が日付を跨ぐこともあることから2日間降雨量を用いている。積雪荷重と降雨による割増荷重を「荷重の組合せ」とする観点から考察すると、Turkstra則によれば⁵⁾、確率過程に従う荷重の組合せにおいて、いずれか主となる荷重が最大値を取る場合には、その他の従たる荷重は確率的に平均値を取るとされている。この考

え方を雪荷重と降雨による割増荷重の関係に用いれば、主たる荷重を雪荷重とし、雨を従たる荷重として考えることが出来る。一方、発達した低気圧が接近する場合のように、降雪と降雨が連続する一つの気象現象として生じる際に、この考え方が妥当かどうか議論の余地がある。降雪と降雨を区別するのではなく、みぞれなども含む、一連の降水量を基に積雪荷重を評価する手法が日本建築学会から提案されている⁴⁾。

- 0.0 - 0.1
- 0.1 - 0.2
- 0.2 - 0.3
- 0.3 - 0.4
- 0.4 - 0.5
- 0.5 - 0.6
- 0.6 - 0.7
- 0.7 - 0.8
- 0.8 - 0.9
- 0.9 - 1.0
- 1.0 -

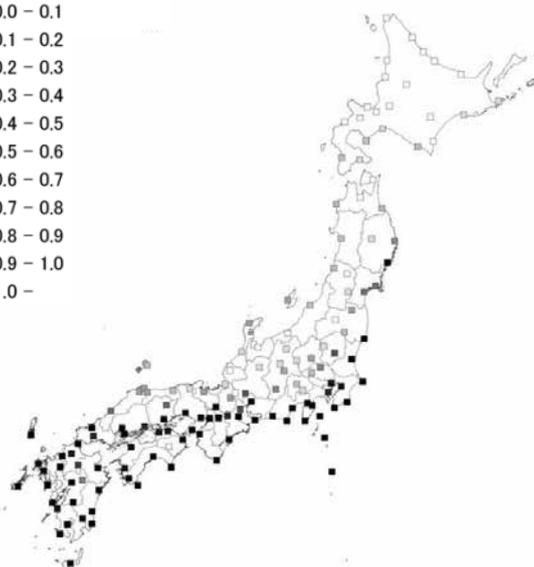


図1 各地の積雪荷重(年最大50年再現期待値)と降雨による割増荷重(2日間降雨量)の比

3. 屋根の勾配と長さ、積雪深が降雨による割増荷重に及ぼす影響

積雪時に降雨が生じた場合、屋根からの排水状況は屋根の勾配と長さによって異なり、積雪が含むことが出来る雨水の量は積雪深に影響されることが考えられる。本事業では、実大規模の屋根を用いた実験により、これらの影響について検討した。

写真1に2015年1月末から3月に新潟県長岡市にて実施した屋外実験の様態を示す。屋外に実大規模の屋根モデル(長さ 5m 、 20m 、 50m 、勾配 2° 、 10°)を設置し、自然降雪により屋根に雪が積もった後、人工的に降雨を与え、ロードセルによる荷重測定および軒先の排水量の測定等により、降雨による割増荷重を実験的に把握した。



写真1 屋外実験の様相 (屋根長さ50m、勾配2°)

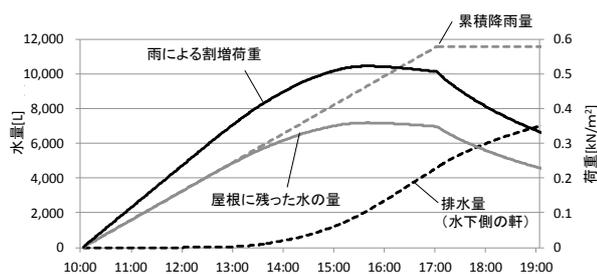


図2 実験結果の例
(屋根長さ50m、勾配2°、積雪深50cm)

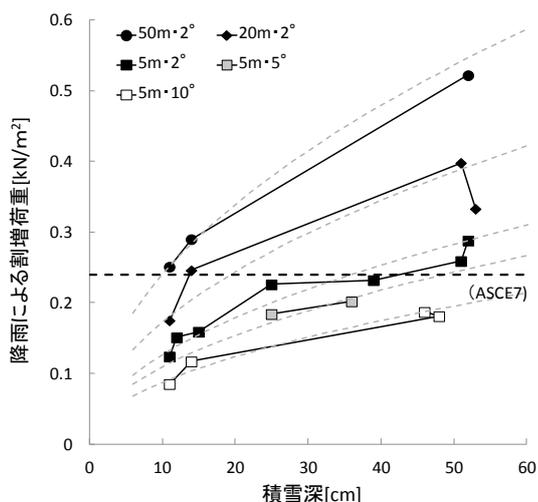


図3 積雪深と降雨による割増荷重の関係

図2に屋根長さ50m、勾配2°、積雪深50cmの条件における実験結果の例を示す。降雨量から排水量を差し引くと屋根に残った水の量となり、これが降雨による割増荷重となる。図2をみると、10:00より一定量で降雨を与え始めると、13:00頃から軒先からの排水量が増加し始め、15:00を過ぎたあたりで割増荷重がピークに達し、その後、減少に転じている。

各屋根モデルにおいて上記のように得られた降雨による割増荷重のピーク値と降雨前の積雪深との関係を図3に示す。図中には米国のASCE7の割増荷重の値 (0.24kN/m²) も示してある。図3に示すよ

うに屋根勾配が小さいほど、屋根長さが長いほど、雨による割増荷重は大きくなる。また、屋根の長さと同勾配であれば積雪深が大きいほど割増荷重も増えており、ASCE7は屋根長さが長く、積雪深が大きい条件において過小評価となっている。これらの実験結果を踏まえると、降雨による割増荷重は屋根長さ、勾配、積雪深の関係から推定することが出来る。一方、本稿で示した実験モデルは単純な片流れ屋根であることから、複雑な屋根形状や樋などの排水性能の影響についても考慮する必要がある。

4. おわりに

一連の研究成果に基づき平成28年1月に国土交通省より降雨による割増荷重に係る告示案のパブリックコメントが募集されるなど、今後、積雪荷重の設定において実務的影響も生じる。本稿では誌面の都合により研究成果の一部の紹介に留まったが、興味のある読者は事業報告⁶⁾および関連論文⁷⁾などを参照されたい。

本事業は、(株)雪研スノーイーターズ (代表機関)、(独)建築研究所、(独)防災科学研究所、千葉大学、北海道科学大学と共同で実施した。

参考文献

- 1) 国土交通省社会資本整備審議会建築分科会建築物等事故・災害対策部会：建築物の雪害対策について報告書，2014.6
- 2) ISO, ISO4355 : Bases for design of structures - Determination of snow loads on roofs, ISO, Switzerland, 2013
- 3) American Society of Civil Engineers: Minimum Design Loads for Buildings and Other Structures, ASCE/SEI 7-10, 2010
- 4) 日本建築学会：建築物荷重指針・同解説，2015
- 5) Turkstra, C.J.: Theory of Structural design decision, Study No.2, Solid Mechanics Division, Univ. of Waterloo, Waterloo, Ontario, Canada, 1970
- 6) 国土交通省：平成28年度建築基準整備促進事業成果概要一覧，
http://www.mlit.go.jp/Jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_fr_000082.html
- 7) 大槻政哉ほか：降雨を考慮した積雪荷重の推定方法に関する研究，日本建築学会構造系論文集，No.739, pp.1329-1338, 2017.9

●自習型認定研修の設問はp8に記載してあります。

青年委員会

学生達との交流

委員長

石塚 尚也



「最近の若者は……」という言い回しをよく耳にしますが、今回私たち青年委員会が交流をもたせていただいた学生さん達には「最近の若者は素晴らしい!!」という言葉がふさわしいと心から思った。

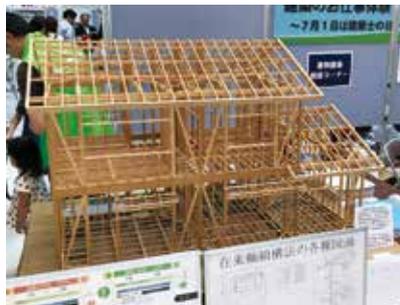
今年の青年委員会は「ひろげる・つなげる」というキーワードのうち前者（ひろげる）を重点的に活動をしよう!という流れの中、ご縁をいただき小樽市銭函にある北海道職業能力開発大学の学生達にお仕事体験イベントのお手伝いをしていただくことになったのです。

■学生達に会いに……■

青年委員会で学生と交流を持ちたい……と考えていたところ、職業能力開発大学の先生が、札幌支部所属の建築士会会員だとのこと。早速連絡を取らせていただき、まずは先生と懇談をしました。話はとても盛り上がり「是非やりましょう!」と力強いお返事をいただきました。実は学生達も現役の建築士と交流を持ちたかったとのこと、「今度学生達と会ってもらえませんか?」ということになりました。

学校に伺い、まずはじめに実験棟を見学させていただきました。実験棟には鉄筋コンクリート造・鉄骨造・木造の建物があり、これらは学生達が設計から施工までの全てを行っているとのことでした。そうなる「設計ではこう考えていたけど実際は納まらなかったなあ」「次はこの部分に気を付けて設計をしよう」ということになります。そういえば、私自身も設計事務所に入りたての頃は現場

の大工さんに「こんなのどうやって納めんだ!」と怒られることばかりだったなあ……と思い出していました。大学のカリキュラムとして彼らが行っていることは、とても実践的で素晴らしいなと感銘を受けました。



(彼らが作成した1/20軸組模型)

次に学生達にお会いして少しお話をさせていただきました。彼らの一番の悩みは、将来どの職種(施工・設計・行政……等)に進むかということでした。コレがやりたいかなあ……と漠然と考えてはいるが、具体的にどのようなことをやっているのか?楽しいことは?辛いことは?等ざっくばらんに建築士の先輩たちの生の声を聞きたい、ということを言われました。私たちは私たちで今の若い人たちは建築業界や建築士会についてどのように考えているのかということにとっても興味があるので、この交流は双方にとってとても有意義な取り組みになると思いました。

■イベントお手伝いと交流会■

イベント当日は9名もの学生達が参加してくれました。感心したのは学生達の発想力でした。4ブースのお仕事体験を子供たちに体験してもらうのですが、子供たちにわかりやすいように、お手本作品を作ってもらうようお願いしました。そのなんとも豊かな発想力、私たちおじさん達とはちょっと違ったアプローチでとても面白いモノを作ってくれました。

参加してくれた子供たちも年齢が近いせいか、とても親しげに懐いていました。休憩時間には、学生と建築士で僅かな時間ではありましたが、お話をすることも出来ました。



(イベント終了時の記念写真)

そして日を改めて開催された、お疲れ様会を兼ねたBBQ大会でも、学生と建築士総勢30名が集まり、親睦を深めることが出来ました。今回は札幌開催であった為、地方の青年会員の皆様は残念でしたが、今後改めてこのような場を継続していく価値はあるのではないかと強く感じました。

■今後の目標■

まずは、このつながりをしっかりと固定化させて、今後の継続事業となることを考えています。青年委員会の活動のテーマ「ひろげる・つなげる」建築士会だけで活動するのではなく、一般の人たちや他団体に活動の輪を広げ、そして次世代を担う若者たちにつなげていく。

今回の学生達との交流は、まさにこのテーマそのものなのだと思います。

彼ら現役生の中から二級建築士の合格者が出て、建築士会に入会し青年委員会で活躍してもらおう!! なんてすばらしいのでしょうか。

表彰関係

9月30日開催の第42回全道大会（後志大会）の式典において、北海道建築士会長表彰者の表彰式が執り行われ、永年にわたり会の発展に功績のあった方々並びに会員歴が30年以上にわたり会の発展に貢献された方々に表彰状、平成28年の熊本地震で応急危険度判定業務に従事された方々に感謝状が授与されました。以下に皆様をご紹介します。

【(一社)北海道建築士会会長表彰】 ☆会員歴30年以上の方々には記念の徽章が贈呈されました。（敬称略）

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
札幌	新藤 紀彦	後志	瀬尾 正男 ☆	苫小牧	熊谷 智	釧路	石田 幸雄 ☆
札幌	那須 豊治	後志	鎌田 克己 ☆	北空知	川口 弘 ☆	釧路	佐藤 滋
札幌	木谷 泰彦	岩内	旦尾 彰英 ☆	北空知	中野 栄治 ☆	中標津	村上 泰弘 ☆
恵庭	吉田 富男 ☆	古平	藤田 幸男 ☆	北空知	北垣 威史 ☆	中標津	北澤 正志
石狩	三寺 章夫	古平	山田 文雄	旭川	小野田浩司	網走	佐古桂尉次 ☆
函館	平井 等	室蘭	嶋田 庄悦 ☆	旭川	伊藤 和幸	北見	小川 為之 ☆
函館	山本 真也 ☆	室蘭	青木 裕辞 ☆	旭川	更谷 良幸	北見	中川 勝
桧山	室井恵美子	苫小牧	荒川 浩之	十勝	津田 祐治	宗谷	遠藤 一男 ☆
小樽	本間 恵美	苫小牧	用田 史門	十勝	仁科 勝義 ☆	宗谷	阿部 裕 ☆

【(一社)北海道建築士会会長表彰感謝状】（敬称略）

支部名	氏名	支部名	氏名
恵庭	木幡 正和	日高	三嶋 克昭

受賞おめでとうございます。

「災害時応急危険度判定活動連携協定」1市6町と締結

北空知支部 支部長 岩 淵 賢 二

北空知支部は空知振興局管内の最北にあり、深川市と近隣6町を併せた人口3万6千人弱の農業を基盤とした緑豊かな田園地帯であります。2010年4月支庁再編により幌加内町は上川管内に編入されましたが、北空知支部の会員として引き続き活動されています。また、当支部の会員数は正準会員68名、賛助会員26名の計94名であります。会員数も年々微減が続いており、会員の減少が当支部の大きな悩みとなっております。

本年度の支部長・支部事務局長合同会議が6月3日札幌市で開催されました。

報告事項として、「災害時応急危険度判定活動連携協定締結の推進のお願い」があり、北海道建築士会が災害時における被災建築物の応急危険度判定等の支援要請に対して、迅速かつ的確な対応が図られるよう「震災建築物応急危険度判定支援要綱」を2014年10月に改正し、行政との連携のなかで震災時の判定活動をより効果的に実施していくためには、支部と行政とが本協定を締結することが推進され、これを受けて恵庭支部が平成27年12月に全道34支部のトップを切って協定を締結した事の報告がありました。

支部といたしましては、6月28日開催の「第3回理事会」に恵庭市の事例を紹介し、可能であれば当支部としても「災害時応急危険度判定活動連携協定締結」に向け取り組みたい旨を提案したところ、本年は支部創立60周年記念の「年」（とし）でもあり、建築士と行政との連携は重要なことであり、今まで支部事業として、事例がないこともあり、各理事の承認を得ることができました。

幸いにも理事9名の内6名の方が市役所・町役場の職員と言うことも有り、事務局としても「支部長・支部事務局長合同会議」でいただいた資料を基に副支部長・事務局長が支部内の1市6町に直接足を運び、「災害時応急危険度判定活動連携協定締結」により「応急危険度判定士」がより迅速に判定活動が可能となるなどメリットが大きいことを説明し、是非、それぞれの行政内部で協議いただき「協定締結」にむけて検討いただきたいと、お願いをしたところです。

行政の担当の方も、平成23年(2011年)3月11日の「東日本大震災」更に近年では平成26年(2016年)4月14日の「熊本地震」等記憶に新しい地震災害が続いており我々の住んでいるところも「対岸の火事」とは思えないとのことから、

今回、建築士会と連携を図れることは大変力強いこととご理解をいただきました。

その結果、8月31日「深川市」（山下貴史市長）をかわきりに、9月5日「幌加内町」（細川雅弘町長）。9月6日「秩父別町」（神薮 武町長）、「雨竜町」（西野尚志町長）。9月13日「沼田町」（金平嘉則町長）、「妹背牛町」（寺崎一郎町長）。最後に9月21日「北竜町」（佐野 豊町長）との協定締結を終えたところであります。それぞれの市町とも議会開催中にもかかわらずわざわざ「協定締結」のために時間を作っていただき、直接首長さんと協定を取り交わすことが出来ました。

当初は1市6町と広域であり、すべて「協定締結」可能かどうか心配でしたが、今は「協定締結」を終えた充実感とこれから「建築士」としての活動の重責とともにより一層技術の研鑽に励まなければならないと痛感しております。

この間、被災地応急支援委員長の牛田様及び石川事務局長には協定書(案)の作成の指導や、「応急危険度判定士」名簿に関しての「北海道建築指導課」との協議など、(個人情報で「名簿」は入手できませんでしたが、最終的には「人数」の把握はできました。)種々大変お世話になりました。本当にありがとうございます。この誌面を御借りいたしまして改めてお礼を申し上げます。



左：佐野 豊北竜町長 右：岩淵賢二支部長

各支部の活動情報共有による 会員増強の試み

道南ブロック会

統括理事 山内 一男 (函館支部)



6月3日、松山、苫小牧、日高、室蘭、函館の5支部長が集まって今年度第1回、道南ブロック会議が開催された。牛田被災地応急支援委員長、本間地域貢献活動センター委員長を含め11名で行われた。会員減少が鈍ったとは言え、増えることの社会的要因が見当たらない中、積極的な各支部の取組みは長期的に建築士会の社会的存在の基礎づくりを目指している。

監理技術者講習や基礎杭の技術講習など会員も含めた取組、親子「my箸づくり」を通じて建築士会を広報し次世代への建築技術者への興味を抱く函館の活動。

昨年の全道大会開催のお礼と、開催によって地域に建築士をアピールできた報告が有り、全道大会開催地で支部独自に施設見学を実施している取組を継続している室蘭の興味ある報告。

広域に会員が活動しているため、親睦と交流を抜きに支部活動は維持できないこと、子ども絵画コンクールや「花いっぱい運動」など、継続することで息の長い建築士会の活動を地道に探っている日高。

親睦ゴルフ大会や地域施設見学会などの会員交流、技術研修は地域での建築士の情報交換となっているようで、更に地域4町で行う道路清掃活動は建築士会の社会的貢献を通じて建築士の存在をアピー

ルしている苫小牧。

「景観ワークショップ」を小学生と継続して実施、建築士と一緒に「ものづくり」をし、地域に存在を確かにするとともに、ベンチや案内板など確実に活動痕跡を残している。地域の祭りには建築士会の存在が欠かせない松山。

会員の拡大は、行政職員の建築士会への参加無しには進まない。様々な講習会開催にしても行政職員の参加が少ない。振興局の職員の入会が是非とも必要で急務な課題だとの意見が多かった。本部から北海道へ働きかけを期待したい。

今回の会議は、道南各支部の様々な取組や活動、勉強会の情報を共有して、他地域に参加し建築士の交流を図っていくことが確認された。他地域の建築士との交流は会員でなければ出来ない。技術は日進月歩、これからの建築士に必要なのは正確な情報とその量だと考える。地域や地域住民にとって必要とされる建築士の姿ともいえる。

各支部での勉強会、講習会、施設見学会の開催情報を道南ブロックは共有し、会員の都合によって自由に横断的に参加が可能になり、建築士会のメリットを活かして行きたいと考えています。

支部の施設は支部の地域でなければなかなか見学できない。情報の共有は建物に触れるチャンスを増加させます。又、他支部との建築士との交流の機会を得ることで会員の増強に期待が出来るようである。今後の活動に期待が持てそうだ。

その為に、道南ブロックのメーリングリスト作成を本部にお願いし、有効に活用したいと考えている。

道北ブロック会議報告

道北ブロック会

支部長 中澤 光夫 (旭川支部)



昨年11月1日以来の道北ブロック会議が6月3日に開催され道北8支部から支部長又はその代理の方々の出席をいただきました。

議題は各支部課題への対応、会員増強、次年度開催の全道大会(土別大会)の対応、本部実行委員の推薦等でありました。

平成30年の全道大会は道北ブロックの順番で、開催支部は昨年のブロック会議で決定済みの土別支部が主管することになっており、具体的な取り組みはこれからですが道北管内各支部の協力を得ながら進めることで了解を頂いたところでありました。

また、10月26日に土別市において平成29年第2回道北ブロック会議の開催も決定したところですがその場で次期全道大会の協力体制の具体的な協議を行うこととしております。

会員増強については何れの支部も頭を悩まされ、会員の減少を食い止めることに努めることが先決で増強までは考えられないとの支部が多い現状にあります。

今後の対応としては視点を変えた取組も必要とのことで、高校生及び小中学生等の若年層に対し建築

に対する興味を抱いてもらう事業の実施を検討しなければならないのではないかと意見が出されました。

現在当士会で取り組んでいる住教育出張講座は大変有意義でより拡充する必要があるとの意見が出されました。

この他、本部の次期実行委員会委員の推薦及び新規事業の既存住宅状況調査技術者講習についての議題のうち、実行委員の推薦は次回開催のブロック会議で行う事、技術者講習は道北エリアでは旭川で開催されるので、是非受講するようPR方お願いしたい旨説明が有りました。

既存住宅状況調査技術者講習については6月1日に移行講習、6月9日に新規講習が実施されそれぞれ11名、25名の方が受講され技術者として登録されております。

本講習会は住宅瑕疵担保責任保険協会や建築士事務所協会でも実施しておりますが、来年4月1日に改正宅地建物取引業法が施行されるに伴い資格を持った技術者の不足が懸念される所です。ことから、可能な限り当建築士会会員の皆様には講習を受けていただきたいと思っております。

秋も深まり平成29年も残すところあと3カ月となり何かとお忙しい時期となりましたが会員の皆様には当士会のためご尽力下さいます様お願い申し上げますと共にご自愛くださいますことをご祈念申し上げます。道北ブロック会の報告とさせていただきます。

日高支部 全国唯一

青年委員長
森 勝利



日高の基幹産業が少しずつ息を吹き返してきました。7月21日から5日間、新ひだか町の日本軽種馬協会北海道市場で開催されたサマーセール（サラブレッド1歳馬競り市）の売り上げが、6年連続で過去最高を記録し、初めて50億円を突破しました。関係者のみなさんにおかれては、一喜一憂あったものと思いますが、馬産地総体としては、最高の結果で終えることができました。そんな中、毎年、注目を浴びているのが、全国で唯一、授業でサラブレッドを生産している北海道静内農業高校の上場馬です。同校生産科学科の2・3年生31人が交代で世話をしてきた栗毛の牡馬「北翔（ほくと）」のセリは、350万円からスタートし、複数の購入希望者によるセリの結果、JRA（日本中央競馬会）が520万円で落札しました。高校生

が育てた馬ということもあって、会場では温かい拍手が送られたとのこと。2003年（H15）の同セールに同校が上場し、250万円で落札され、ユメロマンと名付けられた牡馬は、2005年（H17）2月にデビュー戦を勝利し、同校生産馬として中央競馬初勝利をもたらすと、その後、2勝するなど、生涯獲得賞金は、なんと4,511万円に達しました。まさに、「夢、浪漫」です。「北翔」がデビューするのは、早ければ、来夏。世話をした3年生は、それぞれの進路へと旅立った後になりますが、必ずやどこかでその活躍を待ち望んでいることでしょう。しかしながら、明るい話題の一方で、ピーク時には、年間1万頭を超えていたサラブレッドの生産頭数も、ここ数年は、7千頭を割り込んでいる状況で、たくさんの活躍馬を送り出してきた老舗牧場の閉鎖という現実にも直面してい

ます。基幹産業に活気が戻り、この間、我慢に我慢を重ねてきた設備投資に動きが出てきて、はじめて、建設業界にもその波及効果が巡ってきます。その後押しをみなさんをお願いいたします。毎週火・水・木曜日の3日間、11月9日までホッカイドウ競馬が開催されています。一時は廃止の危機にありましたが、好調なネット販売等を背景に、ここ数年は黒字経営となっています。ナイター競馬なので、仕事終わりでも十分間に合います。ご友人、ご同僚などお誘いの上、お近くのaiba（勝ち馬投票券場外発売所）にLet's Go！



愛馬「北翔」と記念撮影に臨む北海道静内農業高校生

旭川支部 事務局が移転しました

事務局長
宮原 進



32年間住み慣れた事務局を移転しました。

昭和60年に建築士会、事務所協会旭川支部及び建築指導センター旭川支所の3事務局合同で賃借して以来初めてとなる移転です。

開設当初は交通の利便性を最優先に買物公園に隣接した場所が選定されましたが建物の老朽化が著しく執務環境が悪化しておりましたし、近年の車社会の進展に伴い車で来局される方の増加で駐車場の確保が課題となっておりました。

加えて家賃の負担が重くこれを解消することも大きな課題となっていたところで、これらの課題を解決することを目的に移転することとなりました。

新事務所は旭川駅からは少々遠くなりますが専用の駐車場が4台

分確保されましたし、家賃も家主の好意で廉価で賃貸することが出来ました。

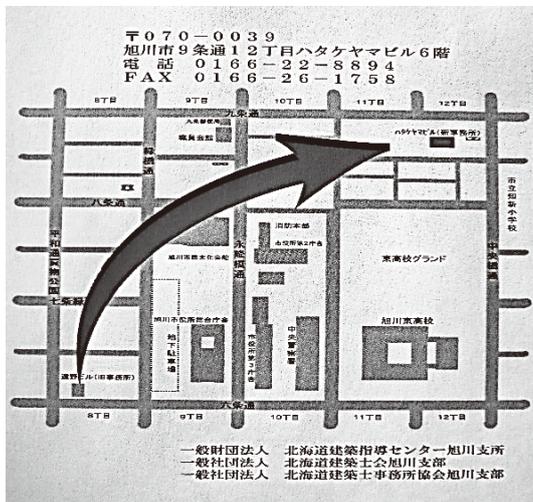
事務スペースは以前より少々狭くなりましたが物品庫が別に確保されていることから整理整頓ができるようになり、来局される方々からは広く明るく感じると大変好評です。

この歳になると引越作業は大変つらく思うようにはできませんでしたが、2か月程経過した今では何とか整理もでき、快適な環境の中で事務処理をこなしているところです。

士会会員の皆様には旭川に来られた際には是非、一度お立ち寄り下さいますようお願いいたします。

平成29年も残すところあと3ヶ月となり予定されている事業もほぼ消化

されていることと思いますが、当旭川支部におきましても残す事業としては事務所協会旭川支部と共催で実施するお菓子の家づくりコンテストと全国大会参加程度ですが、事務局としては次年度予算及び事業計画の策定があり、その作業に追われているところです。



新事務所移転略図

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (11月)

- ◆第3回被災地応急支援委員会
 (開催日) 10月28日(土)
 (議題) 1) 平成29年事業について
 2) 防災読本の製作について
 3) 訓練について
 4) 平成30年事業計画予算について
 5) その他

関係機関等会議参加予定 (11月)

- 2日(木) 建築関係7団体意見交換会 高野会長出席
 15日(水) 建設系CPD協議会運営委員会 高野会長出席
 27日(月) 建築CPD運営会議 高野会長出席

道本部の主な行事予定 (11月)

- 8日(水) 第3回事業委員会
 11日(土) 第4回青年委員会
 25日(土) 第3回女性委員会

11月開催講習会のお知らせ

- ・建築士定期講習

11月9日(木) 室蘭市	11月21日(火) 旭川市
11月15日(水) 帯広市	11月29日(水) 札幌市
 - ・監理技術者講習

11月15日(水) 札幌市

 - ・応急危険度判定士認定講習会

11月6日(月) 室蘭市	11月22日(水) 留萌市
11月10日(金) 中標津町	11月29日(水) 浦河町
11月16日(木) 函館市	11月30日(木) 網走市
11月21日(火) 岩見沢市	
 - ・「建築士による住教育出張講座」

北海道白糠高等学校	11月9日(木)
北海道上ノ国高等学校	11月15日(水)
北海道南幌高等学校	11月14日(火)
北海道留萌千望高等学校	11月16日(木)
北海道室蘭工業高等学校	11月16日(木)
 - ・「杭基礎の正しい設計・施工」の講習会(DVD講習)

11月8日(水) 旭川市	11月21日(火) 函館市
11月9日(木) 札幌市	11月22日(水) 帯広市
11月17日(金) 北見市	11月28日(火) 苫小牧市
- 【主催：東西アスファルト事業協同組合】
- ・防水技術セミナー2017 in 函館

11月8日(水) 函館市

 - ・防水技術セミナー2017 in 帯広

11月29日(水) 帯広市

編集後記

気温も急に下がり、紅葉も目に映る季節がまいりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか？

9月30日に行われました、第42回全道大会(後志大会)が大盛況に終了されましたことお慶び申し上げます。後志支部の皆様をはじめ、運営に携われました会員並びにご参加頂きました会員の皆様、大変お疲れさまでした。

それでは、かぜなどひかれないう体調には留意し、お過ごしください。

情報委員会 柏倉 晶憲(士別支部)

CPD認定プログラム(10月認定)

- ◆「杭基礎の正しい設計・施工」の講習会
 (日程及び会場) 11月8日(水) 13:30~16:40
 勤労者福祉総合センター(旭川市)他5会場
 (単位数) 3単位
- ◆中大規模木造設計セミナー
 (日程及び会場) 12月6日(水) 13:30~16:30
 北海道第二水産ビル(札幌市)
 (単位数) 3単位
 (上記講習会問合せ先)
 (一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076
- ◆震災建築物応急判定訓練
 (日程及び会場) 11月6日(月) 13:00~16:00
 帯広市役所(帯広市)
 (単位数) 2単位
 (問合せ先) 北海道十勝総合振興局建設指導課
 TEL 0155-27-8601
- ◆「公共建築の日」フォーラム
 (日程及び会場) 11月9日(木) 13:30~16:30
 札幌エルプラザ(札幌市)
 (単位数) 3単位
 (問合せ先) 北海道開発局営繕部 TEL 011-709-2311
- ◆「北方圏の省エネ+創エネ」技術の展開連続セミナー in 青森
 (日程及び会場) 12月14日(木) 14:00~17:30
 青森県水産ビル(札幌市)
 (単位数) 3単位
 (問合せ先) 北海道科学大学教育研究推進課
 TEL 011-688-2241

CPD 自習型認定研修の設問

P2-P3 技術ノート
 (降雨が積雪荷重に及ぼす影響について)

北海道建築士 No.243
 2017/11/1 単位:1

設問 建築物の積雪荷重の算定に関し、間違っている記述はどれか。

1. 積雪荷重はどのような屋根形状でも等分布荷重として計算して差支えない。
2. 積雪荷重は標高や海率(区域内において海域等の面積の占める割合)の影響を受ける。
3. 雪止めが設置された45°の勾配屋根の積雪荷重の算定において、勾配による荷重低減を行わなかった。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。



情報委員会委員長/早川 陽子
 副委員長/斎藤 勝哉・高松 徹・森 勝利
 委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人
 柏倉 晶憲

北海道建築士 No.243号

印刷 平成29年10月/発行 平成29年11月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番